

UCCX 11.6 プレリリース通信

目次

[概要](#)

[背景説明](#)

[UCCX 11.6 アップグレードの準備をして下さい](#)

[SocialMiner アップグレードおよび Microsoft Exchange](#)

[UCCX のための TLS 1.2 サポート](#)

[RTMT およびスクリプト エディタへの影響](#)

[ESXi 6.5 のためにサポートして下さい](#)

[アップグレードの減らされた時間](#)

[アップグレードおよび新しインストールのための単一 ISO](#)

[デスクトップおよびブラウザ更新](#)

[リアルタイム レポート ツール](#)

[ブラウザにおける互換 モード](#)

[単一 サインの \(SSO \)](#)

[新しい識別プロバイダのためのサポート](#)

[Finesse フェールオーバー 拡張](#)

[重要な考慮事項](#)

[サービサビリティ機能拡張](#)

[コンテキスト サービス ダッシュボードおよびアラート](#)

[アップグレードする前に知って下さい](#)

[LiveData にユーザパスワード 一貫性および影響を報告すること](#)

[UCCX 11.6 にアップグレードの後で CUIC レポートにアクセスすることが不可能なユーザを報告します](#)

[電子メールおよび Exchange 考慮事項のための高められた添付ファイル サイズ制限](#)

[メッセージ 限界 サイズを計算して下さい](#)

[重要なアップグレード考慮事項](#)

[シスコのドキュメントを得、サービス リクエストを入れて下さい](#)

概要

この資料は UCCX 11.6 プレリリース通信を記述したものです。

注: Unified Contact Center Express (UCCX) は重要な 機能およびパートナーおよび顧客を助けるサービサビリティ更新へ 11.6 リリース重要な更新との非常に重要なリリースです。このリリース前の通信は UCCX 11.6 に速いこの計画を助ける重要な更新および重要な情報の外観をスムーズなアップグレード提供します。

背景説明

UCCX 11.6 に設定される 製品の 機能およびエージェント、スーパーバイザおよび管理者の生産性を高めるために向けられるいくつかの機能があります。主要な更新は電子メールで Cisco Unified

Intelligence Center (CUIC) レポートへの更新および Finesse デスクトップ更新がコンタクトセンター ユーザのエクスペリエンスを非常に豊かにする間、チャット機能性入りました。コンテキスト サービス ダッシュボードのような重要なサービスビリティ更新はかけられるアップグレードのための減らされた時間のような利点を提供するには更新がシステムに行われる間、余りに追加されました

新しい 機能の要約 (詳細リストに関するリリース ノートを参照して下さい) :

Cisco Finesse

- 転送を指示して下さい
 - セカンダリ行に基づくエージェントの状態
 - 理由コード ラベルをデフォルトで表示する
 - 拡張な Finesse フェールオーバー
 - 最近のコールヒストリおよびエージェントの状態レポート
 - FIPPA のためのキュー 統計情報
 - READY 状態からコールを作る能力
 - ACD 行のアウトバウンドコールを監視する能力
 - スーパーバイザ 史的文章
 - システムにより生成される理由コード ラベルを修正するエージェントおよび能力のためのラベルとスクリプトを書く拡張
-
- make 他コールのためのヘッダおよびプロキシ サポート
 - エージェントが準備ができなかった理由コードに基づいていた数えられることができるように可能に
さい
 - 新しい JSON 資料ステップを作成して下さい
 - 新しい JSON ドキュメント データ ステップ
 - コンテキスト サービスはテンプレートとして追加された IVR スクリプトを基づかせていました
 - TLS 1.2 サポート

UCCX 11.6 アップグレードの準備をして下さい

UCCX 11.6 サポートはこれらのパスからのアップグレードを指示します:

10.x	11.0	11.5
10.5(1)SU1	11.0(1)	11.5(1)
10.6(1)	11.0(1)SU1	11.5(1)SU1
10.6(1)SU1		
10.6(1)SU2		

上のバージョンで加えられるどのエンジニアリング スペシャル (ES) でも ES がシステムでインストールされている上記のいずれかのバージョンからアップグレード パスに、アップグレード 実行されたことができます影響を与えません。 ソフトウェア リリースがこの資料の刊行日付以降にある場合、アップグレード パスのアベイラビリティを確認するために UCCX ソフトウェア互換性マトリックスをチェックして下さい。

SocialMiner アップグレードおよび Microsoft Exchange

UCCX はすべての電子メールおよびチャット機能性のための SocialMiner と相互に作用しています。 11.6 アップグレードは UCCX および SocialMiner サーバが両方同じ Maintenance ウィンドウの 11.6 にアップグレードされるようにすることを計画する必要があります。 UCCX 11.6 では

、電子メールおよびチャット機能は主要な更新を経ました。11.5 のまだ SocialMiner の UCCX 11.6 のこれらの機能を使用する、想定外の結果を持ち、エラー/警告は表示する。

アップグレードのための推奨される シーケンスは同じ Maintenance ウィンドウの SocialMiner サーバおよび UCCX サーバをアップグレードすることです。

UCCX 11.6 ソリューションサポート Microsoft Exchange サーバ 2013 および 2016 - UCCX 電子メール機能性のための企業および標準版。Microsoft Exchange サーバ 2013 を使用する場合、TLS 1.2 が Exchange によってサポートされるように Exchange サーバ 2013 (KB3197044) のための累積更新プログラム 15 をインストールするために確認して下さい。このパッチなしで、SocialMiner 間の通信および Microsoft Exchange サーバ 2013 は失敗し、電子メールルーティングは失敗します。既に UCCX の Microsoft Exchange サーバ 2013 サーバセットアップがあつている場合、UCCX 11.6 の本番に入る前にこのパッチをインストールするために確認して下さい。

これは Microsoft Exchange サーバ 2016 のために必要ではないです。

注: Exchange への接続のために TLS 1.2 を使用したくない場合最小サーバ TLS バージョンは SocialMiner サーバの 1.0 に設定することができます (TLS 下記の例の詳細を参照して下さい)。Exchange と SocialMiner 間に TLS ミスマッチがある場合、すべての電子メール供給は失敗します。

UCCX のための TLS 1.2 サポート

UCCX 11.6 では、デフォルトは UCCX が接続のクライアントかサーバとして機能するとき接続のための TLS 1.2 です。UCCX 11.6 にアップグレードし、UCCX および使用 TLS と相互に作用しているサードパーティアプリケーションがある顧客は、この変更気づくべきです。

UCCX 11.6 はまた両方のクライアント および サーバ接続のためのバージョン最小の TLS アップデートする機能を提供します:

- TLS クライアント最小値バージョン <1.1 か 1.0> を設定して下さい
- TLS サーバ最小値バージョン <1.1 か 1.0> を設定して下さい

例: TLS サーバ最小値バージョン 1.2 を設定して下さい

コマンドは両方のノードでこれが高可用性のシステムである場合動作しなければなりません。コマンドが、システム動作する 1 つは `utils システム 再始動` コマンドを使用して再起動しなければなりません。

サポートされるバージョン最小は TLS またコマンドの実行によって確認することができます:

- TLS クライアント最小値バージョンを示して下さい
- TLS サーバ最小値バージョンを示して下さい

注: 最小バージョンが 1.0 に設定される場合、それは接続が 1.0、1.1 および 1.2 をサポートすることを意味します。

RTMT およびスクリプト エディタへの影響

彼らが UCCX 11.6 を使用し続けることができるように TLS 1.2 を、およびこの RTMT のような規格持つこと、セキュリティ規格すべての UCCX プラグインおよびスクリプト エディタである

ことが原因で再インストールされます。UCCX にアップグレードを掲示して下さい:

1. 以前に RTMT があつたすべてのマシンの RTMT をダウンロードし、再インストールして下さい。RTMT のより古いバージョンは UCCX の接続を確立することができません。
2. 以前に UCCX スクリプト エディタを備えていたすべてのマシンの UCCX スクリプト エディタをダウンロードし、再インストールして下さい。

ESXi 6.5 のためにサポートして下さい

UCCX 11.6 から開始するために、ESXi 6.5 はサポートされます。VMFS 6 におけるパフォーマンス上の問題および VMWare からの進行中の調査が原因で、ESXi 6.5 は VMFS 5 でしかサポートされません。

	ESXi 6.5 サポート	ESXi 6.5 の VMFS バージョン	コメント
BE6K	○	VMFS 5	他のアプリケーションの依存関係は VMFS 6 の使用を必要とします
non-BE6k	○	VMFS 5 および VMFS 6	ESXi および VMFS のアップグレードは VM の移行を必要とするかもしれません

11.6 のために送達される最新の OVUM テンプレートを使用するようにして下さい。

注: VMFS 6 のために以前のリリースのために将来アップデートすることができますサポートして下さい。最新のアップデートのための UCCX 仮想化 [wiki](#) を参照して下さい。

アップグレードの減らされた時間

UCCX 11.6 では完全なアップグレード演習のためにかけられる合計時間を減らすために、更新は行われました。スイッチのバージョン プロセスの一部として Finesse、CUIC および履歴データのような個人のアプリケーションのデータを移行するために、いくつかのスクリプトは次々に動作します。UCCX 11.6 では並行して動作するスクリプトがあるためにおよびかなりかけられるスイッチのバージョンのための時間を減らすために、設計はそれによりアップデートされます。

スイッチのバージョンのための実時間が顧客 データベースのサイズが表示する原因である場合もない間、内部テストはスイッチのバージョン プロセスの約 30% 時間リダクションを示しました。

アップグレードおよび新しインストールのための単一 ISO

Cisco.com で掲示され、この ISO がアップグレードか新しいインストールに使用することができる UCCX 11.6 では、リリースされるたった 1 ISO があります。ISO は UCSInstall_UCCX の規則的な命名規則に続きます

この ISO はブート可能なイメージとして両方のブート オプションを、そう同様に動作します与えられます。

デスクトップおよびブラウザ更新

リアルタイム レポート ツール

リアルタイム レポート ツールはもはや十分に基づくブラウザでアクセスされるべき PC でダウンロードされるために必要となる Java アプレットを使用します。Java セキュリティに関するほとんどのブラウザでもたらされてセキュリティ更新プログラムが最初にの間にインストールするダウンロードされる Java アプレットとして UCCX リアルタイム レポート (RTR) ツールを導入することは必要です。

11.6 に更新済動作:

1. RTR はまた今ツール > プラグイン ページにプラグインとして、ナビゲート ダウンロードされて利用できます。それは > リアルタイム レポート ページ ツールにあり続けます。
2. ある特定の PC ポスト アップグレードから UCCX 11.6 への RTR にはじめてアクセスした上で、Java アプレットは UCCX サーバからダウンロードされます。ユーザ ust にダウンロードを可能にし、同じを開く権限があります。

注: これはアップグレードの後で RTR にアクセスしたい各 PC でされる必要があります。RTR アプレットがダウンロードされれば、PC にアクセスできるどのユーザでも同じを開くことができます。

RTR を使用するための推奨される Java バージョンは **Java 8** です。ユーザは Java 7 がある場合、ユーザは Java コントロールパネルの TLS 1.2 を有効にする必要があります。

ブラウザにおける互換 モード

Internet Explorer (IE) を使用している場合、Finesse デスクトップは互換 モードをサポートしません。変更は互換 モードが有効になる場合エージェントに警告を示すためにあります。互換モードが必要となる唯一のシナリオはセキュリティ 引出しのような機能がある CUIC のための古い UI のアクセスのため、スケジューラー等です。

単一 サインの (SSO)

UCCX は現在統合されたウィンドウ 認証をサポートします。UCCX リリース ノートおよび関連文書を詳細については参照して下さい。

新しい識別プロバイダのためのサポート

UCCX 11.6 では、いくつかの新しい識別プロバイダ (IDP) はサポートのために修飾され、追加されます:

- Microsoft AD FS (アクティブ ディレクトリ フェデレーション サービス): 2.0、2.1 および 3.0
- PingFederate: 8.2.2.0
- OpenAM: 10.0.1
- 特有の慣習: 3.3.0
- F5: 13.0

UCCX 11.6 はまた SAML v2.0 を使用するあらゆる IDP を使用します。IDP が標準 SAML v2.0 に確認し、UCCX (ID) 設定に食料調達できる限り IDP は UCCX SSO にそれが上記のリストの一部でなくても使用することができます。

Finesse フェールオーバー 拡張

UCCX 11.6 から開始するために、フェールオーバー 動作は全システム フェールオーバーをしないで Finesse フェールオーバーの間にエージェント生産性を確認するために高められます。エージェントが動作の変更を認識されているように同じを理解することは重要です。

動作の変更の外観。

シナリオ	UCCX HA 動作	Node1 の Finesse サービス	Node2 の Finesse サービス
CCX Node1 のエンジン故障	CCX SideB のエンジンはマスターになります	Finesse は Out Of Service および戻り新しいマスター エンジンに接続するとすぐ IN_SERVICE への行きます。	Finesse は Out Of Service 状態からマスター エンジンに接続して IN_SERVICE への行きます。
CCX Node2 のエンジン故障	CCX SideA のエンジンはマスターを続けます	Finesse は IN_SERVICE であり続けます	Finesse は IN_SERVICE であり続けます。
Node1 の Finesse サービス OOS	エンジン マスターシップは影響を受けていません	OUT_OF_SERVICE	Node2 の Finesse サービスは IN_SERVICE であり続けます
Node2 の Finesse サービス OOS	エンジン マスターシップは影響を受けていません	Node1 の Finesse は IN_SERVICE であり続けます	OUT_OF_SERVICE
CCX Node1 の通知 サービス失敗	エンジン マスターシップは影響を受けていません	OUT_OF_SERVICE	Node2 の Finesse サービスは IN_SERVICE であり続けます
CCX Node2 の通知 サービス失敗	エンジン マスターシップは影響を受けていません	Node1 の Finesse は IN_SERVICE であり続けます	OUT_OF_SERVICE
アイランド モード	HA ノードは両方ともマスターになります	Node1 の Finesse は IN_SERVICE であり続け、Node1 のエンジンに接続されます。	Finesse は IN_SERVICE であり続け、Node2 のエンジンに接続されます。

重要な考慮事項

1. UCCX はエージェント ログオンのロード バランシングをサポートしません。すべてのエージェントはマスター ノードだけにログインする必要があります。動作の機能拡張はフェールオーバー サポートだけのためです。
2. 両方のノードに同じエージェント ログオンがあることを同時にサポートしません。これはエージェント エクスペリエンスの不整合の原因となる場合があります。
3. 両方のノードに接続されるエージェントに導く複数のフェールオーバーの場合にすべてのエージェントは最も早いもののマスター ノードに移動する必要があります。それはすぐにされる必要はありません管理者は利用可能な Maintenance ウィンドウに基づいてこれのために計画できます。

サービサビリティ機能拡張

コンテキスト サービス ダッシュボードおよびアラート

UCCX 11.6 では、コンテキスト サービスに登録されているすべてのコンポーネントのステータスを確認するために提供されるダッシュボードがあります。ダッシュボードは UCCX サルビサビリティ ページで Status ページ ツール > コンテキスト サービスにナビゲート するのでアクセスすることができます。



Component	Host Name	State	Status	Mode	Last Fetched at	Action
FMC	uccx1-71.cumulus-motorcycles.com	Registered	Online	NA	Jul 5, 2017 8:55:18 AM	-
Finesse	uccx1-71.cumulus-motorcycles.com	Registered	Online	Lab	Jul 5, 2017 8:55:27 AM	-
Finesse	uccx2-72.cumulus-motorcycles.com	Registered	Online	Lab	Jul 5, 2017 8:55:27 AM	-
SocialMiner	sm-186.cumulus-motorcycles.com	Registered	Online	Lab	Jul 5, 2017 8:55:26 AM	-
UCCX	uccx1-71.cumulus-motorcycles.com	Registered	Online	Lab	Jul 5, 2017 8:55:26 AM	-
UCCX	uccx2-72.cumulus-motorcycles.com	Registered	Online	Lab	Jul 5, 2017 8:55:26 AM	-

これらは解読されるへ少数のステータスです:

登録済み 接続ステータス 表示するステータス

- 200 ● [オンライン]
- NON-200 ● [オンライン]
- N/A ● OFFLINE
- なし 200 ● OFFLINE
- なし NON-200 ● OFFLINE
- N/A N/A ● STOPPED
- N/A N/A ● 不明 *

CS ダッシュボードをできませんエラーかタイムアウトによるステータスを取得することが *When。

この情報は JSON/text 形式でエクスポートすることもできます。

ダッシュボードに加えて、RTMT は同様に isadded 警告 します:

ContextServiceStepsExecutionIssue

これは次の場合には引き起こされます:

- コンテキスト サービスにおける接続上の問題によるスクリプト タイムアウトのコンテキスト サービス ステップは曇ります。
- コンテキスト サービス クラウドのエラーによるコンテキスト サービス ステップ失敗。

アップグレードする前に知って下さい

LiveData にユーザパスワード 一貫性および影響を報告すること

UCCX 11.6 から始まって、LiveData および史的文章は両方データ ソースを設定するためにレポート ユーザパスワードを使用します。パスワードがノードの間でマッチしない場合、報告は影響を与えられます。

アップグレードする前に、パスワードを両方のノード間で一貫しています確認して下さい。これ

らのステップによって確認できます:

1. ツール > パスワード管理へのナビゲート。
2. チェック 一貫性をクリックして下さい。
3. No エラーが、よければ。一貫性 ミスマッチが (特にレポート ユーザと) あったら、両方のノードのパスワードをアップデートして下さい。

UCCX 11.6 にアップグレードの後で CUIC レポートにアクセスすることが不可能なユーザを報告します

Cisco Unified インテリジェント なセンター (CUIC) 割り当てはユーザー アクセスに割り当てられる権限に基づいてレポートにアクセスします。 水平な権限に基づいてユーザはエージェントレポートへ提供されたアクセスかスーパーバイザ レポートまたは報告管理者に設定される Complete レポートです。

これらの権限は UCCX のユーザに割り当てられるロールに基づいて Unified Contact Center Express (UCCX) から同期されます。 ユーザはコマンド `utils cuic ユーザの実行作 Admin CCX \ <username>` によってとりわけ CUIC 管理者に作ることができます

アップグレード プロセスの間に、UCCX と CUIC アプリケーション間の権限は再同期されて得、従ってユーザに与えられる高い CUIC 管理者権限は上書きされて得ます。 従ってユーザはそれらのレポートだけ割り当てその彼のオリジナル ロールの見ます。

アクセスをユーザはアップグレードの前にあったレポートに提供するため:

1. 両方の UCCX ノードの `utils cuic ユーザ` を実行して下さい作 `Admin CCX \ <username>`。
2. 両方の UCCX ノードの CUIC レポート サービスを再開して下さい。

電子メールおよび Exchange 考慮事項のための高められた添付ファイル サイズ制限

UCCX 11.6 では、添付ファイルのサイズの制限はこれらにアップデートされます:

- エージェントによる添付ファイルの最大数: 10
- エージェントによる総 attachments の最大サイズ: 20MB
- エージェントによる単一添付ファイルの最大サイズ: 10MB

UCCX ソリューションが増加された添付ファイル サイズを可能にする間、メッセージサイズ制限は Exchange (メール サーバ) で添付ファイルがブロックされないようにアップデートされます。 企業全体の IT ポリシーに基づく制限は適用するかもしれません。 Exchange サーバがメッセージをブロックする場合、エージェントはエラーを見ます: 「顧客の電子メールに答えることが不可能。再試行を『Send To』をクリックするか、または要求して下さい。問題が持続する場合、連絡して下さいシステム アドミニストレータ」。

メッセージ 限界 サイズを計算して下さい

メッセージサイズ = 電子メールのサイズは添付ファイル + Base64 エンコードが含まれています

Base64 エンコード = メッセージのサイズの ~33%

推奨される 数式は **メッセージサイズ = 電子メールの 1.5*Size 含まれています添付ファイルがです**

例 : メッセージのサイズが 9MB (添付ファイルを含んで下さい) なら、制限として設定 されるべきメッセージサイズは (9*1.5) = 14MB あるはずでず。

UCCX ソリューション側のこの高められた制限を利用しなければならない場合 20MB まで UCCX 11.6 割り当て添付ファイル サイズが、設定 されるべきメッセージサイズ制限 $1.5*20MB=30MB$ であること与えられる。

制限は Exchange サーバでコマンドの実行によって設定 することができます:

設定 されるTransportConfig - ExternalDsnMaxMessageAttachSize 30 MB - InternalDsnMaxMessageAttachSize 30MB - MaxReceiveSize 30MB - MaxSendSize 30MB

重要なアップグレード考慮事項

- アップグレードの後ですべてのエージェント マシンのキャッシュを消去して下さい。、 関する問題ステート の 変化にそうでなかったらおよびデスクトップのリアルタイムデータは見られる場合があります。
- Finesse デスクトップ カスタム レイアウトは自動移行されません。 これを考慮し、レイアウト正しく設定されたポストを持つためにアップグレード確認して下さい。
- UCCX 11.6 のための最新の OVUM テンプレートを一致するために VM 設定をアップデートして下さい。 新しいインストールをする場合、OVUM テンプレートを使用して下さい。
- 本番時間の間にアップグレードを行う場合、潜在的な中断を避けるために非マスター ノードのアップグレードを行って下さい。
- UCCX 11.6 では、プラットフォーム Tomcat はアップグレードの間に再起動できます。 これはユーザに影響しませんでしたり、RTMT アラートを生成できます。 これは無視することができます。
- アップグレードを掲示して下さい、RTMT およびスクリプト エディタのすべての例を再インストールして下さい。
- すべてのスーパーバイザを確認すればリアルタイム レポートング ツールを使用している管理者にプラグイン インストール済みポストがアップグレードあります。
- TLS 統合がある場合、TLS サポートを検討し、適切なバージョンと設定されることを確認して下さい。
- ブラウザ要件を検討し、必要に応じて変更を行なって下さい。

- あなた自身を新しい Finesse フェールオーバー機能拡張と精通させ、この更新済動作についてのエージェントによって論議して下さい。

シスコのドキュメントを得、サービス リクエストを入れて下さい

ドキュメントを得る方法の情報に関しては Cisco製品ドキュメンテーションで新しいものをで Ciscoバグ 検索ツール (BST) を使用するために、サービス リクエストを入れるために、その他の情報を収集するために、参照して下さい:

<http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>。

Cisco すべての新しく、修正された技術文書をリストする Cisco製品ドキュメンテーションで新しいものをを、RSS 供給として定期講読して下さいデスクトップに読者 アプリケーションを使用してコンテンツを直接配信して下さい。RSS 供給は無料サービスです。

製品 IN この手動に関する仕様および情報は変更に応じて予告なしにあります。すべての文、情報および推奨事項 IN は正確であるとの手動信じられますか一切の保証なしで示されますか、表現するか、または意味しました。ユーザは ANY 製品のアプリケーションに対する全面責任を奪取する必要があります。

伴う製品のためのソフトウェア ライセンスおよび限定保証は述べられた IN 製品と提供されたで、この参照によってここに組み込まれます情報 パケット。IF ソフトウェア ライセンスを見つけることができませんまたは限定保証によっては、COPY (ビット 0) に関しては CISCO 担当者が接触します。

TCP Header Compression の Ciscoインプリメンテーションは UCB の UNIXオペレーティングシステムのパブリック ドメイン バージョンの一部として University of California によって、バークレー (UCB) 開発されるプログラムの適応です。All rights reserved. © 1981 年の、University of California の理事著作権をとって下さい。

ANY にもかかわらず他の保証これらのサプライヤーのここに、すべての文書ファイルおよびソフトウェアはすべてのエラーで「現状のまま」として提供されます。CISCO および前述のサプライヤーはすべての保証放棄しますが、制限なしで、を含んで商品性の保証、特定の目的への適合性および対処、使用方法、または取引慣行のコースからの NONINFRINGEMENT または発生を表現されるか、または意味される。

いかなる場合も CISCO がサプライヤーは ANY 間接、特別な、必然かまたは、使用か不可能から起こる DATA への制限なしで、付帯的な障害のために責任を負うべき、を含んで失われた利益または損失または被害この手動を使用する CISCO がサプライヤー HAS そのような障害の可能性の助言されてでも。

この資料で使用される Internet Protocol (IP) アドレスおよび電話番号は実 アドレスおよび電話番号であるように意図されていません。例示専用を示されていることを資料で含まれたことを例、コマンド ディスプレイ出力、ネットワーク トポロジ ダイアグラム、および他は計算します。イラストラティブ コンテンツの実際の IP アドレスまたは電話番号のどの使用でも無意識および同時発生です。

すべての印刷された コピーおよび重複したソフトコピーは自由なコピーとみなされ、オリジナル オンライン バージョンは最新バージョンのために参照する必要があります。

Cisco に 200 以上のオフィスが世界的にあります。アドレス、電話番号およびファックス番号は

www.cisco.com/go/offices の Cisco Webサイトにリストされています。

Cisco および Ciscoロゴは米国および他の国の Cisco や関係団体の商標または登録商標です。
Cisco 商標のリストを表示するために、この URL に行ってください

: www.cisco.com/go/trademarks。述べられるサードパーティ商標はそれぞれ所有者のプロパティです。ワード パートナーの使用は Cisco と他のどの会社間の協業関係も意味しません。
(1110R)

©2016 シスコシステムズ、バークリー All rights reserved.